

c 園長先生の子育てひろば

令和4年 9月

肥満傾向児の増加

園長 山中 文

前の「子育てひろば」を繰ってみたら、2年前の2020年9月号には、東北大震災時に幼稚園児の体重増加平均が減ってしまった話を掲載しておりました。ある市の幼稚園児の体重増加平均が、震災前の3.1kgに対して、震災後の放射能を避けるために外遊びが禁じられた後では0.8kgになったというものです。ここで体重増加というのは、肥満になったということではなく、成長期の発達としての順当な増加のことです。当然あるべき体重増加平均が減ったのは、震災後外遊びがなく単純に食欲不振になったというのではなく、本来の子どもらしい活動が減少して心身の発達に複合的に影響していたためではないかと言われていました。その号では、コロナ禍がそのような影響を及ぼさないようにできるだけ日常の保育に近くなる工夫を、と願っていたことでした。

さて、そのコロナ禍であったここ2,3年、実際に幼児の身長体重に何か変化はあったでしょうか。政府統計ポータルサイトでその傾向を見てみましたところ、体重増加率についてはありませんでしたが、肥満傾向児の出現率が掲載されていました (https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400002&tstat=000001011648&cycle=0&tclass1=000001020135&stat_infid=000032216697&tclass2val=0)。

このサイトでは幼稚園児の統計としては平成18年から取られていませんでしたが、令和元年まで幼稚園児の肥満傾向児の出現率が2.27-2.78%の間を推移していて、平成元年も2.27%だったものが、令和2年で3.51%、令和3年で3.66%と増加していることを示していました。このコロナ禍で、小学校以上の学年では、令和2年には数値があがっても令和3年にはほぼ数値を少し下げていますのに、幼稚園児は増加しています。この肥満傾向の状況は、ネットニュースからも多く発信されています。

国際成育医療研究センターの「コロナ禍流行化の子どもの食事への影響に関する全国調査」([コロナ流行下の子どもの食事への影響に関する全国調査 | 国立成育医療研究センター \(ncchd.go.jp\)](https://www.ncchd.go.jp/))では、バランスの取れた食事を取れている子どもの割合が緊急事態宣言中に低下していることを伝えています。このような食事状況も影響しているでしょうし、また外遊びや集団遊びなどができる状況では、運動不足になる面もあったことでしょう。

一方、同サイトでは、嬉しいことに、幼稚園児の虫歯については年々減少していることもわかります。平成10年には処置・未処置を含めて虫歯にかかっている幼児が67.73%おりましたのに、令和3年には26.49%まで減少し、これまでの最小値となっています。これなどは、歯の衛生や歯磨き習慣などの重要性が共有されてきた賜物でしょう。コロナ禍になっても、引き続き高い意識であることが窺えます。さまざまな活動を制限しない工夫の中で感染対策が取られるようになった現在、このようないい傾向を励みにしながら、また様々なデータも少し意識して、子どもたちの食事や遊びを工夫していきたいものです。